

## オーディオ実験室収載

### バッハ盤を聴く(9)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(9)—

#### 1. 始めに

前報(8)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

#### 2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回は LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

**RCA SRA-2855～56**

J.S,バッハ ブランデンブルグ協奏曲

シャルル・ミュンシュ指揮ボストン交響楽団

**RCA RVC-2355**

J.S,バッハ 幻想曲とフーガ変ホ長調 BWV552

六つのシュープラーコラールより BWV648・BWV 649・BWV 650

幻想曲とフーガホ短調 BWV548

幻想曲とフーガハ短調 BWV537

ジグモント・サットマリー (オルガン)

#### 3. バッハのアナログ盤の試聴結果

RCA の国内盤は、ZANDEN のリストでは、EMI、R、第4時定数 Low となっています。

ブランデンブルグ協奏曲は、EMI、R、第4時定数 Low で聴いていきましたが、違和感はありません。しかし、古楽器アンサンブルではないアメリカのオーケストラで、編成も大きいようで、明るく賑やかな演奏で、ちょっと勝手が違うという印象です。

幻想曲とフーガなどのオルガン曲は、RCA の国内盤ながら、日本ビクター発売ではなく RVC 発売となっていますが、盤のラベルは、日本ビクター発売と同様、RED SEAL となっていますので EMI、R、第4時定数 Low で聴いていきましたが、違和感はありません。シュニットガーのオルガンが使用されており、豪壮なシュニット

ガーのオルガンの音色でバッハらしい演奏です。

#### 4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上